



『猿対策連絡ネット』の活動による被害対策

～電気柵、接近警報装置を利用した追い払いにより被害減少～

混住化が進んでいる集落において、サル被害が深刻化してきたことから非農家にも協力してもらい、「できる人ができることをやる」という共通認識のもと環境整備や電気柵の設置管理など集落全体で対策に取り組んだ。

また、役場が設置したサル接近警報装置を活用して住民で組織したサル追い隊が追い払いを行ったところ出没は減少した。

市町村	嬭恋村		
地区	大前		
集落戸数	280戸	農家戸数	67戸
農地面積	7,080 a		
主な作目	キャベツ、トウモロコシ、ベニバナインゲン等		
加害獣種	サル、イノシシ		



背景

当地区は混住化が進んでいる地域で、H12年頃からサルとイノシシ被害が発生しており、特にサルの被害が深刻化したことからH17年に有志による「猿対策連絡ネット(27名)」が組織化され、H21年度には接近警報装置を設置し、サル対策に取り組んできた。

より効果的な対策を展開するには、非農業者も含めた集落ぐるみで取り組む必要があった。

事業内容

【主な取組】

- ◆ 集落環境調査による集落点検地図の作成
- ◆ 集落環境整備の実施（緩衝帯、耕作放棄地の草刈り等）
- ◆ サル追い払いの実施
- ◆ 電気柵（3段、500m）の設置
- ◆ 啓発資料の作成と全戸配付（270戸）

【取組経過】

- H22年 5月～10月 サル追い払い（月15～20回）
 7月 緩衝帯整備
 8月 集落環境調査、集落点検地図の作成
 7月～11月 耕作放棄地の草刈り、樹木の伐採等の環境整備
- H23年 2月 被害対策検討会
 3月 啓発ポスターの作成、配付

- H23年 4月 電気柵等の対策器具の点検
 6月 対策集落会議
 7月 緩衝帯整備
 12月 サル調査報告および対策検討会
- H24年 1月 啓発資料の全戸配付
 2月 アンケート調査報告



ポスターを作成し全戸に協力願ひ

成果

- ◆ 非農業者も含め、集落ぐるみで取り組む合意形成が図れた。
- ◆ 警報システムを活用した効果的な追い払いが実施されるようになった。
- ◆ 集落ぐるみで対策に取り組んだ後、アンケート調査したところ「住民の意識が高まった(31%)」「対策がやりやすい(19%)」「効率的である(16%)」との回答が得られた。
- ◆ 電気柵を林縁部に設置したところ、イノシシ被害が大きく減少した。



みんなで耕作放棄地を草刈り

地区代表者 コメント

みんなで協力して、耕作放棄地の草刈りや樹木の伐木など環境整備をするようになった。
サル出没時は、区長から役場に連絡する体制ができ、鳥獣専門員が追い払いしてくれる。

孺恋村サル接近警報システム



事後評価

指標	A	B	C	D
被害	減った(5-10割)	減った(-5割)	変わらない	増えた
集落環境	改善した	やや改善した	変わらない	悪くなった
出没・目撃	減った(5-10割)	減った(-5割)	変わらない	増えた
集落ぐるみの認識	出来ている	概ね出来ている	一部出来ている	出来ていない
集落ぐるみの体制	出来ている			出来ていない
対策の実施	よく実施している	概ね実施している	一部実施している	実施していない
取組効果	効果あった	概ね効果あった	一部効果あった	効果無かった
継続性	継続している	概ね継続している	一部継続している	継続していない
波及性	波及した	概ね波及した	一部波及した	波及していない
取組度	大変良い	良い	やや良い	不十分
達成度	達成できた	概ね達成できた	一部達成できた	不十分
満足度	大変満足	満足	やや満足	やや不満・不満

センター評価

区長を中心とした連絡体制が整っており、集落ぐるみで取り組む合意形成が図られている。
サルの追い払いは在宅していることが多い複数の住民が中心となって実施され、また電気柵は年2回、住民全戸で草刈りをするとともに地区役員2名が常時見回りや管理をしている。
「できる人ができることをやる」という共通認識のもと対策が取り組まれている。

課題

電気柵が3段なのでサルの飛び込みや開口部から侵入され、農作物被害は断続的に発生している。
追い払いも実施しているが年間を通してサルの出没が続いており、住居近くでの出没もある。さらに、ハグレサルの出没もあり人身被害も懸念される。
また、放任樹木(桑、クリ)や緩衝帯整備が必要な場所が集落内に点在している。